

# 主要Q&A

2014年度第2四半期決算

---

< 全社 財務報告ベース (4-9月期) >

**Q: 2014年度第2四半期決算の概要は。**

A: 売上収益および調整後営業利益は、海外たばこ事業におけるプライシング効果に加え、現地通貨がドルに対して不利に動いたものの円安影響もあり、堅調な実績となりました。営業利益、四半期利益については、前年と比較し不動産売却益が減少したこと、加えて、国内での競争力強化施策費用の一部を今期計上したことから、減益となっています。

< 国内たばこ事業 財務報告ベース (4-9月期) >

**Q: 2014年度第2四半期の概要は。**

A: 4-9月期の販売数量は、仮需反動減の影響により対前年-10.2%となりました。  
一方、自社たばこ製品売上収益、調整後営業利益は、お客様リテンション施策を含めた20円値上げブランドの販促強化による単価効果により、それぞれ-7.0%、-7.4%の減少に留まりました。

**Q: 国内のシェアの状況は。**

A: 4月の消費税増税後、20円の値上げを行ったブランドへのエクイティ投資を集中的に行ってまいりました。  
MEVIUSは、メビウス・プレミアム・メンソール・オプションを中心に順調に推移しております。また、7月にはセブンスター4銘柄、9月にはピース2銘柄を投入しております。これら新製品の効果もあり、競合他社によるベースラインよりも低価格の新製品の発売や活発な販促活動が継続する厳しい競争環境の中でも、JTシェアは堅調な実績となっております。  
これは、ブランドエクイティ強化を継続してきた結果であると考えております。

**Q: 2014年1-9月期の実績は。**

A: 1-9月期の総販売数量は、ロシア、欧州各国での総需要減少の継続、イタリア、トルコ、台湾等での価格競争激化の影響により、対前年-4.9%となりました。  
しかしながら、主要市場の総需要が減少する中においても、GFB販売数量は、スペインでのB&H、Winston、トルコでのCamel、欧州の複数市場においてFine Cutが好調に推移したことから、1-6月期と比較し減少率が改善しました。  
一方、引き続きプライシングは堅調であり、ロシア、UK等でのプライシング効果により、為替一定ベース調整後営業利益は二桁成長を継続しております。

**Q: 2014年7-9月期のクラスター別実績は。**

A: South & West Europe クラスターにおいては、欧州の景気停滞にともなう総需要減少、イタリアでの競争激化が継続しておりますが、スペインでのB&H、Winston、BeneluxでのFine Cutの伸長により、7-9月期のGFB販売数量は堅調な実績となりました。一方、自社たばこ製品売上収益は、主にイタリアでの競争激化の影響により、減収となっています。  
このクラスターの足許の総需要については、上期に比べ緩やかな改善がみられるものの、減少傾向は今後も継続すると考えております。

North & Central Europeクラスターは、UK、ポーランドでの総需要減少影響があるものの、7-9月期においてもドイツ、ハンガリーを含めた複数市場でのGFB好調モメンタムが継続しています。自社たばこ製品売上収益についても、GFBの数量伸長に加え、UKでのプライシング効果により、好調を継続しています。

CIS+クラスターは、ロシアでの総需要減少影響があるものの、ロシア、カザフスタン、ルーマニアでのGFBの改善により、7-9月期は、4-6月期と比較し、販売数量の減少幅が縮小しました。

ロシアは、総需要減少が継続しております。8月までの実績を踏まえるとQ3は対前年10.4%の減少と見ており、厳しい事業環境が継続していると認識しています。

加えて、中価格帯以下での競争激化も継続しておりますが、7-9月期は、上期に一時的に生じた不利な価格差が解消したこともあり、販売数量の減少幅が4-6月期と比較して4.3ppt改善しました。

7-9月の3か月平均シェアでは、Winstonが15.4%と過去最高をマークし、GFBシェアは23.9%まで伸長しました。

Rest of the World クラスターは、トルコにおいて、CamelのPopular価格帯への再配置を行ったことが貢献し、GFBを中心に販売数量が大きく改善しました。

<国内たばこ事業 Like-for-Like ベース (1-9月) >

**Q: 1-9月で見た場合の国内たばこ事業の状況は。**

A: 販売数量は、総需要減少率が-3.2%の中、底堅く推移し対前年-2.9%となりました。  
自社たばこ製品売上収益は、お客様のリテンション施策を含めた20円値上げブランドへの集中投資による単価効果により、対前年-0.7%と堅調な実績となりました。  
調整後営業利益は、単価効果に加え、前年上期においてMEVIUSへのサポートを強化したことによる販促費の相対的減少、国産葉の使用比率が前年と比較し低下したことによる原材料費の減少等により、対前年+7.6%となっています。

<2014年度修正見込 Like-for-Like ベース>

**Q: 全社見込修正の主な要因は。**

A: 全社の為替一定ベース調整後営業利益は、海外たばこ事業、医薬事業の見込を上方修正することから、110億円上方修正をし、対前年約8%成長をめざしてまいります。  
営業利益については、品川シーサイドフォレストの売却を新たに見込みに織り込んだことから、当初計画に対して320億円上方修正いたします。  
なお、2014年10月7日に発表をした「欧州におけるたばこ製造拠点再編に関する協議開始について」に関連するリストラ費用は現時点では未確定であり、今回の修正見込には含んでおりませんが、2014年度中の計上を見込んでおります。